

山形県立山形東高等学校
えがお大作戦 御中

公益財団法人 ジョイセフ
〒162-0843
東京都新宿区市谷田町1-10 保健会館新館
TEL 03-3268-5877 FAX 03-3235-9774

2018年11月26日
公益財団法人ジョイセフ
事務局長 勝部まゆみ

ジョイセフ「思い出のランドセルギフト」活動へのご協力のお礼

このたびは、アフガニスタンの子どもたちにランドセルを贈る活動へのご支援を賜り、ありがとうございました。ご寄附の領収証を同封しましたのでご確認ください。

日本で役割を終えたランドセルをアフガニスタンに贈る活動を通して、これまでに約19万個のランドセルが海を渡りました。年間1万5千個～2万個を贈っています。けれども、ランドセルを配付しているプロジェクト地域では、毎年約7万人の新一年生がいて、まだまだランドセルは足りません。

ユニセフの「世界子供白書 2017」によると、アフガニスタンで小学校に通う女の子は2人に1人。女の子が学校に通えない理由には、貧困に加えて、家族や地域の理解がないという背景があります。そのため、ジョイセフではアフガニスタンの子どもたちにランドセルや学用品を男女平等に手渡し、特に教育の機会に恵まれない女の子が学校へ行くためのきっかけづくりをしています。

ランドセルは、横浜の倉庫で検品され、学用品を詰め直して、横浜港から中継地のパキスタンのカラチ港に向けて出港します。そこからは陸送でアフガニスタンのナンガハール州まで届けます。アフガニスタンではジョイセフが支援している現地 NGO のアフガン医療連合センターのスタッフが、現地の学校の状況を調べ、均等に学用品が行き渡るように詰め替えてトラックで子どもたちのもとへ届けます。

アフガニスタンの青空教室でランドセルの配付を始めてから15年目になりました。もらった子どもたちの中には大学に入った、先生になれた、と夢をかなえたことを報告してくれる子どもたちも出てきました。ランドセルを背負う子どもたちの笑顔を見るたび、一人でも多くの子どもたちが学校に通えるように、これからも、この活動をさらに進めていかなければと思います。

ぜひ、この活動を周りの方々に広めてくださいませんか。そして、日本の子どもたちからアフガニスタンの多くの子どもたちに、未来へはばたく夢と力をお贈りください。

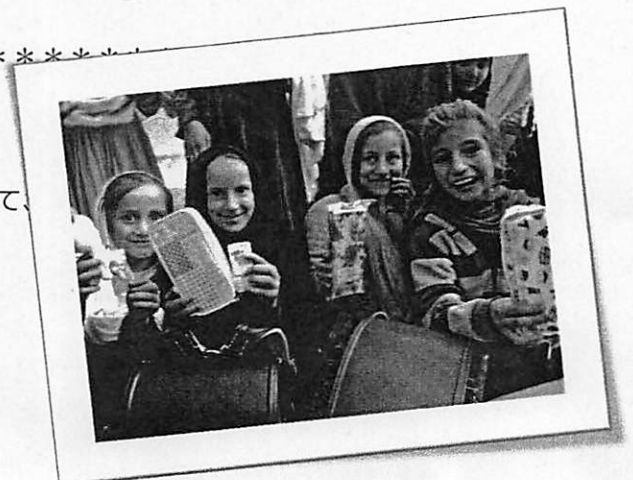
サルマさんとロビナさん（シャガ小学校2年生）

ランドセルをもらってどんな気持ちですかという質問に対して、二人は「大好きなランドセルをもらえて本当に幸せです。日本のお友達に感謝の気持ちでいっぱいです。」と答えてくれました。

あなたの将来の夢は何ですか、という質問に対しては

サルマさん：「いつか日本に行ってみたいです。」

ロビナさん：「学校の先生になりたいです。」



印紙税法第五条
別表(二)の十七号
により本団体は収
入印紙の添付を必
要としません。

領 収 証

山形県立山形東高等学校 様

¥232,200 ※

但 思い出のランドセルギフトとして

2018年11月1日 上記正に領収いたしました

公益財団法人
東京都新宿区市谷田町保健会館新館
TEL 03-3268-
1111

